

会 議 録

会議の名称	総合計画進行管理会議（令和4年度 第1回）
開催日時	令和4年8月29日（月） 午前9時から午前9時50分まで
開催場所	和泉市役所 3階庁議室
出席者	【出席者】 森吉副市長、吉田副市長、小川教育長、小泉参与、山本危機管理部長、山崎市長公室長、前田総務部長、立花環境産業部長、堂ノ上福祉部長、森市民生活部長、岩井子育て健康部長、八木都市デザイン部長、並木教育・こども部長、辻生涯学習部長、森下上下水道部、藤原消防長 【事務局】 （産業振興室） 山村産業振興室長、関戸商工観光担当課長、田中総括主幹 中島農林担当課長、山崎主任 （久保惣記念美術館） 辻野久保惣記念美術館館長代理 （政策企画室） 東政策企画室長、藤井企画経営担当課長、高垣総括主幹、江口主事
会議の議題	1. 令和3年度事後評価結果について 2. 外部評価委員会の答申に対する対応方針について
会議の要旨	・令和3年度の事後評価結果、及び外部評価委員会の答申に対する対応方針について議論を行った。
会議録の作成方法	☐ 全文記録 ☒ 要点記録

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

	1. 令和3年度事後評価結果について
森吉副市長	○令和3年度事後評価結果について、事務局より説明願う。
事務局	（事務局[政策企画室]から、資料1、2、3、4-1、4-2を説明）
森吉副市長	○本件について、委員から意見はあるか。
	（委員からの意見なし）
森吉副市長	○順調に推移している指標は全体の半数以下という厳しい状況であり、このままでは令和7年度の目標達成が危惧される。各委員におかれては、全ての指標が順調に推移できるよう、好事例などを参考にしながら、いっそう事業を推進されたい。 ○市民アンケート結果を見ると、達成率60%を超えて順調に推移しており、ほとんどの指標が右肩上がりになっていることから、これまでの市の事業に対して市民から一定の評価をいただいていると考えられる。 ○ただし、市民の満足度が低い指標は達成率にかかわらず、さらなる向上を目指す必要がある。現状に満足することなく、さらに事業を推進し、より高い市民満足度が得られるよう、各委員には事業の進行管理をお願いしたい。
	2. 外部評価委員会の答申に対する対応方針について
森吉副市長	○外部評価委員会から提出された答申について、事務局より説明願う。
事務局	（事務局 [政策企画室]から、資料5を説明）
森吉副市長	○「道の駅いずみ山愛の里施設活性化事業」に関して事務局から説明願う。
事務局	（事務局 [産業振興室]から、資料6を用いて対応方針（案）を説明）
	【委員からの意見等】
小泉参与	○農業者の育成・支援のためアグリセンターと連携すると記載があるが、出荷者協力会とアグリセンターとが連携していく具体的な考えはあるのか。
事務局	○出荷者協力会とアグリセンターが直接連携するわけではないが、アグリセンターで実施する営農指導や低コスト野菜の開発・研究により、農業者の直接的な育成・支援を行っていく。
小泉参与	○道の駅の売上について、指定管理者が提案した目標に対する実績はどのような状況か。

事務局	○4/29の道の駅のオープンから6月末までの約2か月で、累計売上は7,700万円となっている。指定管理者の提案目標には若干届いていないので、季節ごとのイベントを行いながら売上の向上に努めていく。なお、リニューアル前の道の駅の売上は、年間1億3千万円から1億5千万円の間で推移していた。
小泉参与	○外部評価委員会でも指摘のあったとおり、道の駅の活性化にとって品揃えを充実させることは重要であるので、夕方に商品がないといった事態が生じないよう、十分気を付けてもらいたい。
森吉副市長	○「交流拠点施設を活用したまちの賑わい創出・交流人口拡大事業」に関して事務局から説明願う。
事務局	(事務局 [久保惣記念美術館] から、資料6を用いて対応方針(案)を説明)
山崎公室長	【委員からの意見等】 ○二つの案件に共通してのお願いになるが、この対応方針については従前から、市の担当部署・外部評価委員会・議会の3者にて確認・把握いただいているところである。しかし、今回評価対象となった施設はいずれも指定管理者等の民間事業者が運営している施設で、答申の中には行政だけでは対応困難なものもある。施設所管課におかれては、こうした対応方針を市が策定・公表していることを指定管理者等と共有いただき、同じ課題認識を持ったうえで、KPI達成に向けて協力して対応いただきたい。
森吉副市長	○他に意見がないようなので、対応方針(案)については、これを成案としていきたい。
吉田副市長	○この会議を通して、総合計画のマネジメントそのものを改革したいと思っているため、進行管理会議の進行管理という観点から意見しておく。 ○まず、会議の在り方として、会議の始めには前回の振り返りがあるべきだ。委員が「どうせ意見を言っても何も変わらない」と思ってしまうと、意見も出しづらくなる。前回から何を変えたかが分かるよう、会議の構成として、冒頭には振り返りをいれていただきたい。 ○昨年度は「これは集計であって分析ではない」と指摘したが、今回は数字を踏まえた分析がなされ、各部長の分析も記載されている。この会議だけにとどまらず、あらゆる会議において、委員意見はしっかりと受け止め、改善してほしいと考える。 ○このほか、外部性を高めるために会議録を公表し、和泉市の強み・弱みも明示した方がよいと指摘したが、この点については改善できたと考える。4年がかりで変えようと思っており、この1年間で大きく前進したと評価できるものの、さらなる取組が必要だ。 ○行政評価は、アウトプットとアウトカムの両方を進行管理するのが理想の形だ。現在の評価方法ではKPI(アウトプット)の向上によりKGI(アウトカム)の達成をめざすことになっているが、将来的にどうなることをめざし、現在の取組が理想の実現に向けてどのように役立っているかが分かるよう、目標の立て方にもうひと工夫が必要だ。各成果指標(KPI)ごとにその取組の満足度に関するアンケート調査を行うなど、来

	年度に向けて検討いただきたい。 ○外部評価については、答申をしっかりと受け止められたい。資料を公表し、外部評価委員や市民、議員が見たときに「はぐらかした」と受け止められないような記載をしていたきたい。
事務局	○会議の冒頭に前回の振り返りを行うなど、よりよい会議の進行方法を検討する。 ○K P I は令和3年度の計画改訂時に見直しており、市民アンケート項目の追加などの新たな指標設定等については慎重に考える必要があるが、より適切な行政評価につながるよう、次の1年をかけて研究・検討する。
吉田副市長	○アンケート調査にこだわっているわけではないが、アウトプットとアウトカムを常に意識しながら、目標設定をしてほしい。
事務局	○外部評価に対する対応方針については、所管課と調整しつつ、今回いただいた意見をもとに、次回、しっかりと明文化できるように調整していきたい。
森吉副市長	○総合計画の「進行管理」であるから、今ある課題に対して、何を行って、その結果どうなったかというのは誰もが興味のあるところだと思う。特に外部評価委員は、ご自身が評価した結果、市がどのような対応をするのかには興味を持たれると思う。 ○最後に、事務局から連絡事項等あれば、説明願う。
事務局	○総合計画に係る事後評価結果については、10月初旬に議長報告を行う予定。 ○地方創生関係交付金事業の事後評価については、議会の意見を確認したうえで10月ごろに国に実績報告をする予定だが、議会からの意見により方針に大きな修正等が必要になった場合は、再度の会議開催も含めて、委員長と相談のうえ調整する。 ○次年度以降は人口ビジョンの改訂、次期総合計画の策定等について検討していく必要があり、その折は本会議において意見を聞く予定であるので、方針等について整理ができた段階で改めて会議日程等を通知する。
森吉副市長	○本日の会議は終了する。

会議の意見を踏まえた対応	
○前回会議の振り返りについて ⇒ 会議を円滑に進行できるよう、前回の会議から改善した箇所を明記し、冒頭に振り返りを行う。	
○行政評価における「アウトカム」的な指標の設定について ⇒ より適切な行政評価につながるよう、次の1年をかけて研究・検討する。 また、次期総合計画の策定に向けてどのような評価方法を行っていくのか研究していく。	
○対応方針（案）の作成については、答申をしっかりと受け止め、取組を明文化すること。 ⇒ 来年度以降、具体的で分かりやすい対応方針の作成に努める。	